

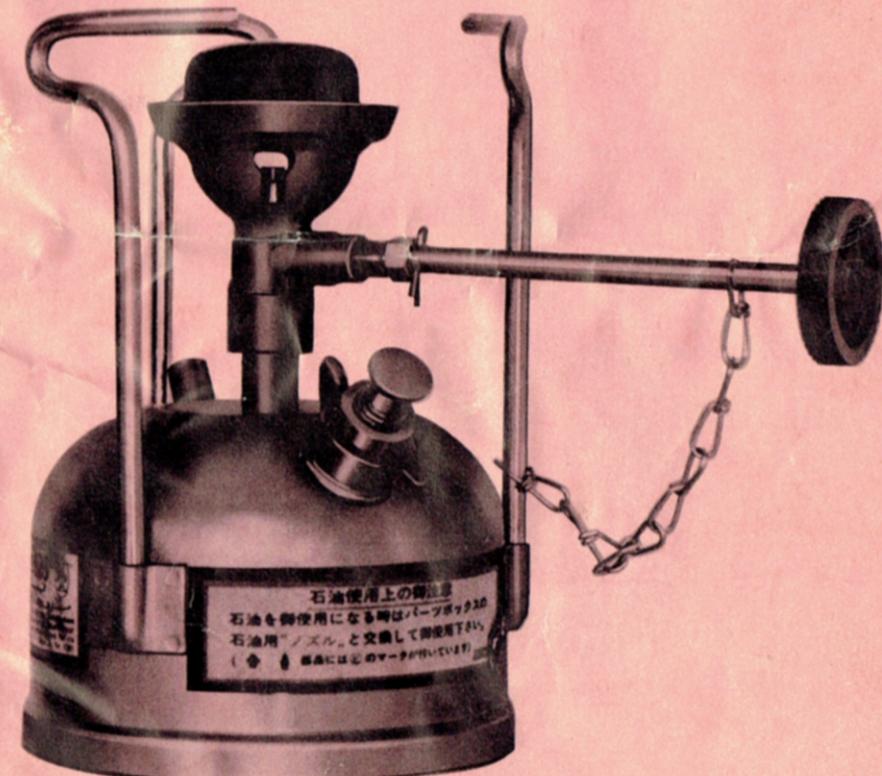
- 御不明の点がありましたら販売店または㈱エバニューまでお問い合わせください。
- 使用上のミスまたは不注意によるアクシテントは責任を負いかねます。
- 必ず説明書をよくお読みの上正確にご使用ください。



MADE IN AUSTRIA

エーブヌ No.625

使用説明書



株式会社 エバニュー

本 社 〒135 東京都江東区木場6-4-38 製造部(03) 649-4811
大阪営業所 〒543 大阪市天王寺区味原町1-1 TEL:(06) 761-6851
札幌出張所 〒065 札幌市中央区北六条西10丁目(安田ビル)
TEL:(011)251-4628
東北連絡所 〒031 青森県八戸市沼館1-1-19 TEL:(0178)44-7053



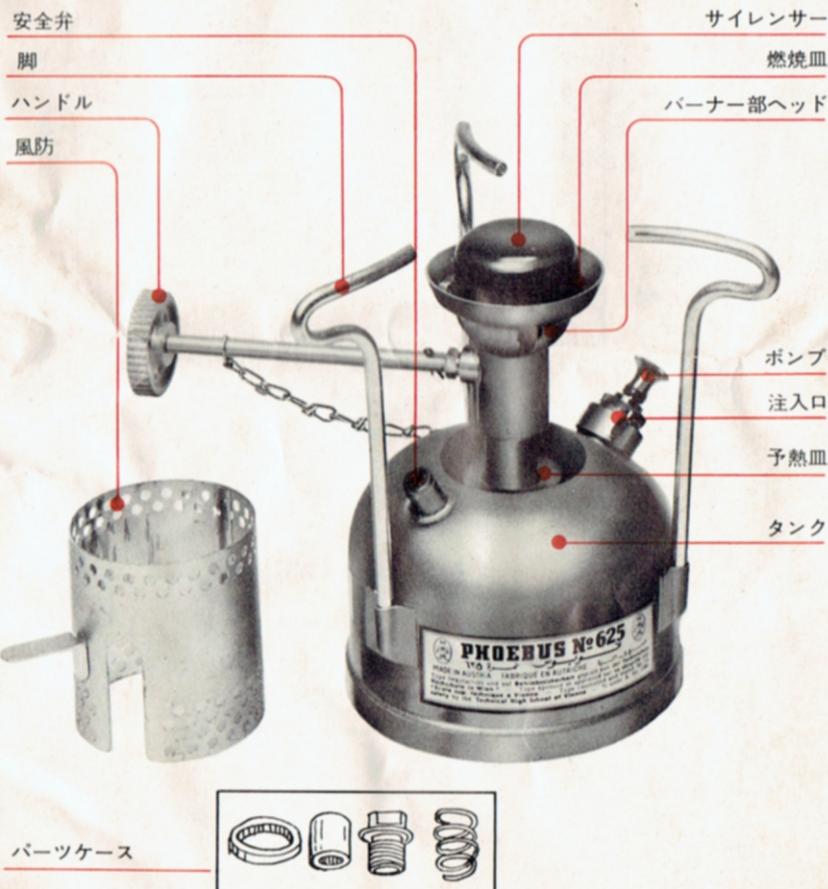
目 次

各部の名称	2
分解図	3
燃料について	4
燃料の充填	5
予熱及び点火	6
火力・調節について	8
消火及び収納について	8
調整及び点検	
修理について	9
必ず守っていただきたい 事項	13

各部の名称

ホエーブスをお買上げ頂き厚く御礼申し上げます。
ホエーブスは1918年に生れてより60年の歳月を経て
今日に至る歴史ある製品であります。
どうか、末長く御愛用下さるようお願い申上げます。

各部の名称をよく知りましょう



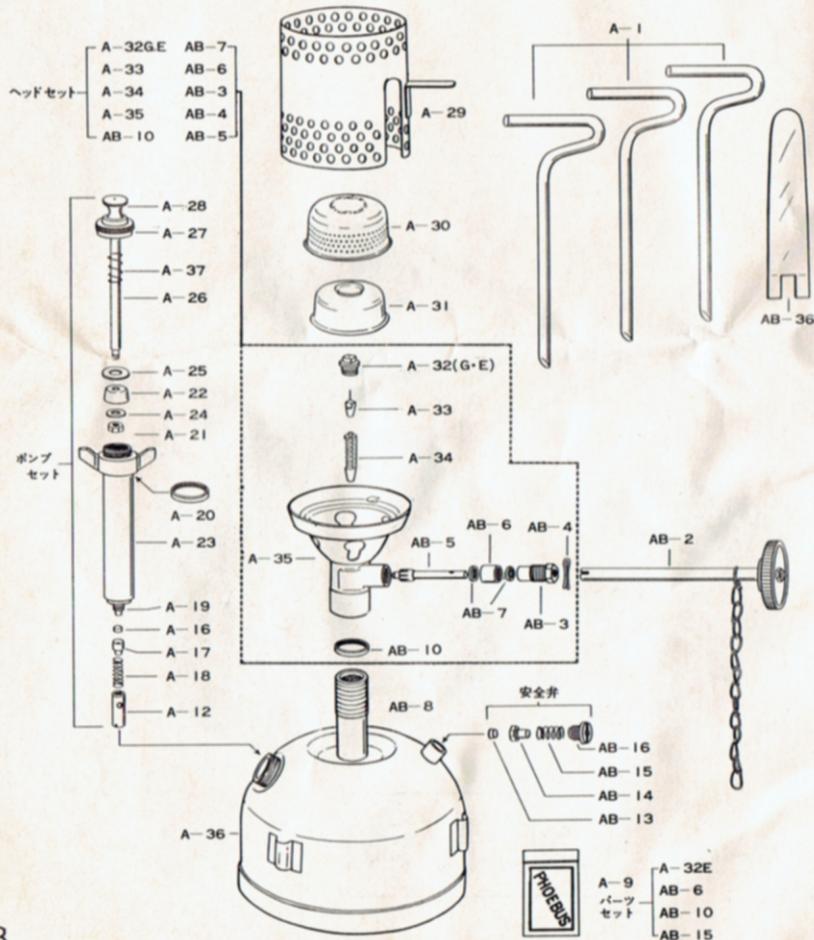
パーツケース



燃料について

ホエーブス No.625は部品（ニップル）を交換する事によりガソリン
・石油（白灯油）どちらでも燃料として使用できます。

分解図

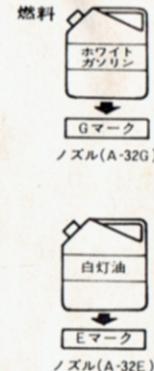


燃料の選定

- ガソリンを燃料とする場合、ホワイトガソリンを使用して下さい。ホワイトガソリンが入手困難な場合は自動車用無鉛ガソリンを使用して下さい。自動車用有鉛ガソリンはバーナー内部及びタンク内部を腐蝕させる恐れがあり、又有鉛ガソリンに含んでいる非揮発性分がニップル等につまり故障の原因と成りますので、有鉛ガソリンは使用しないでください。

- 石油を燃料とする場合、白灯油を使用して下さい。白灯油とは家庭用ストーブ等に使用されているものです。

- ホエーブス No. 625のニップルにはガソリン用がGマーク、石油用にはEマークがそれぞれ付されています。
- ホエーブス No. 625をガソリンで使用する場合は必ずGマークを確認して下さい。石油（白灯油）で使用する場合は必ずEマークを確認して下さい。
- お買上げの時はGマークのニップルが装着してあります。



燃料の充填(補給)

燃焼中、又は火気のそばでの燃料充填(補給)は大変危険ですから絶対にさけて下さい。

- 燃料を充填(補給)する場合は必ず火を消してタンク本体が冷えるまでお待ちください。又ガスによる火が出ていないか確認して下さい。

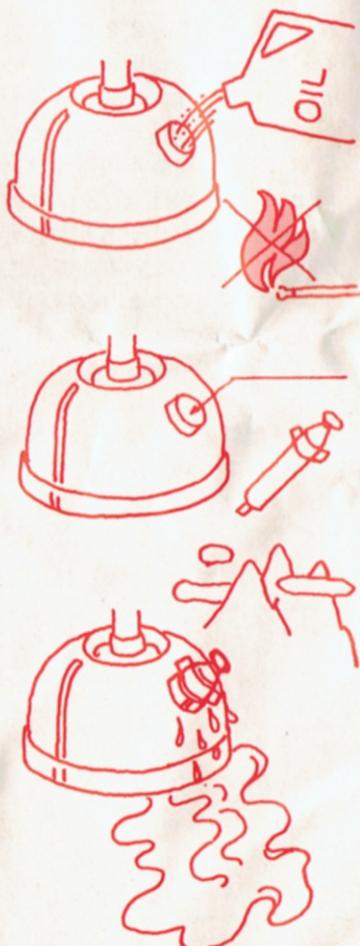
- 燃料を充填(補給)するにはポンプ部を左廻しにねじをゆるめポンプ部をタンクより抜き取って、その口から補給して下さい。

- タンク容量は約0.6ℓが適量です。

- 燃料の充填(補給)が終ったらポンプ部をタンクに装着し右廻しにねじをしっかりとしめてください。ゆるんでいると燃料がもれ燃焼中に引火する恐れがあり危険です。

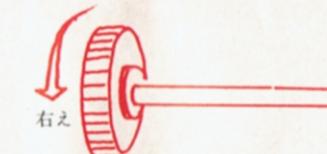
- 燃料の充填(補給)中誤って燃料を外へこぼしたタンク等をぬらした場合は乾いた布でよくふき取るか、乾燥するまで待って操作して下さい。

- 燃料を充填したまま高山に登る時は気圧の関係でタンク内の圧力が高まり燃料がもれることがありますので注意して下さい。



予熱及び点火

- (1)ハンドルを右へ廻しニップルのノズル部が閉じているか並びにタンク内に圧力が加っていないかを確認してください。(燃料が噴出しているなければ閉じている。)



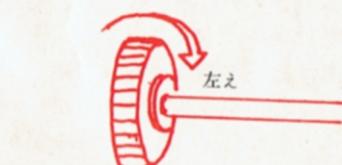
- (2)予熱皿に燃料用アルコールまたは固型燃料を平均に入れて点火し、バーナ部分を充分に温めてください。予熱用燃料は危険ですから絶対ガソリンを使用しないでください。



- (3)予熱燃料に点火後風防を装着してください。



- (4)予熱燃料が燃えつきる直前にハンドルを左へ廻し燃焼皿に点火してください。点火当初のポンプ加圧は少めにして、出来るだけ小さい炎で2~3分間燃焼しバーナーの調子を確認をしましょう。予熱時間が不充分ですと完全燃焼の状態になるまでに余分な時間を要します。



火力調整について

(5)予熱不足で赤い炎が出る時にはもう一度最初から予熱してください。

(6)ポンプレバーを作動させて加圧してください。(約5回～10回)

(7)石油使用の場合にはガソリンの場合より予熱時間を多めにしてください。

(8)もし生ガス(気化していない燃料)により炎が広がってしまったら、あわてずにハンドルを右に廻し閉めてから炎を消してください。

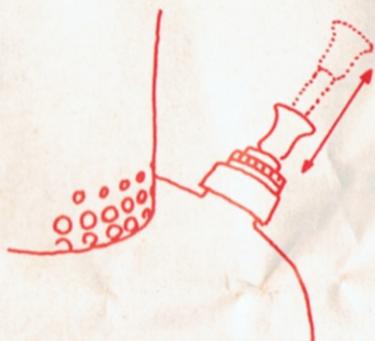
“注意”

●ニップルを開いたまま予熱すると燃料があふれて火災の原因となります。

●ガソリンでの予熱は危険ですからやめてください。

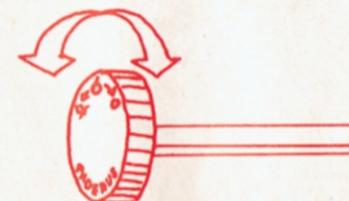
●予熱は必ず予熱皿部でおこなってください。

●燃焼皿での予熱は絶対にやらないでください。予熱の効果がないだけでなくニップルのノズル部がつまり不完全燃焼の原因となります。



- 火力はハンドルを左右に廻すことにより自由に調節ができます。

- 燃焼時間は0.6ℓで最大火力約3時間30分燃焼します。



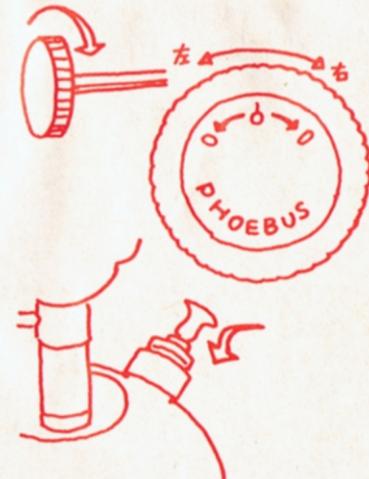
消火及び収納について

- ハンドルを右へ止まるまで廻すと火は消えます。

- 収納する時にはホエーブス全体が冷えたかを確認してからポンプ部のねじを静かに右に廻しゆるめながらタンク内の圧力を抜いて下さい。

- 圧力を抜く時、周囲に火気がないか充分確認しましょう。

- テント内等での圧力抜きは危険を伴なう場合がありますのでやめましょう。



調整及び点検修理(Ⅰ)

定期的に点検いたしましょう。

(1) ニップル及び掃除針

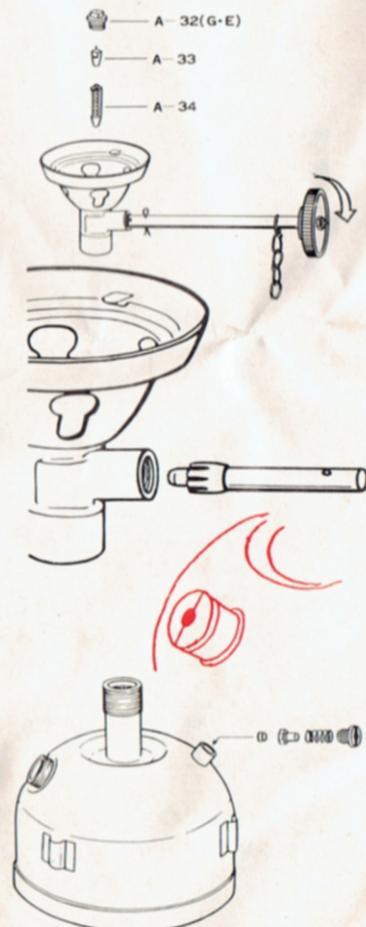
■ハンドルを左へ廻すと内蔵されている掃除針（A-33）がニップル（A-32G・E）の穴を通り燃料噴出口（ノズル）が掃除されます。

■炎の調子の悪い時は燃焼中に定期的に実施して下さい。掃除針を燃焼中に操作する場合火が消えますのでマッチ等を準備して消えたらすぐ点火するようにして下さい。

■長期間の使用によりニップルの口径が大きくなったり変形しますと炎の安定を欠き不完全燃焼の原因となります。古くなったニップル及び掃除針は新しいものと交換下さい。

(2) 安全弁

■1年に数回、定期的に点検整備をしてください。不純物がつまたりさびが生じたりして安全弁の機能を低下又は全く不能にする場合があります。特に使用前の点検は充分実施してください。



調整及び点検修理(Ⅱ)

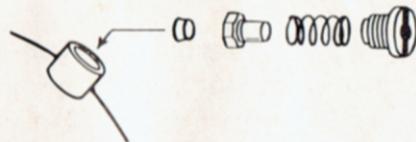
異常燃焼には落着いて、手順よく処理をいたしましょう。

■安全弁内のスプリング（AB-15）及びゴムパッキン（AB-13）の弾力点検し弾力が低下していたらすぐ交換して下さい。

■燃焼中に安全弁から火が吹き出すことはタンクの圧力が必要以上に高まったためタンクの破裂を未然に防ぐ安全弁の正常な働きがあつたものです。

■安全弁から火が出た場合、ただちにハンドルを右に廻してガスを止め、安全弁の火を息で吹き消すか濡れ布などでおおって消火してください。

當時安全弁から火が出る事態は異常です。タンクが冷えてからタンク内の圧力を抜いて安全弁の修理実施してください。

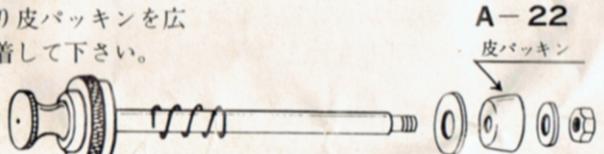


調整及び点検修理

(III)

(3) ポンプ

■ポンプレバーを操作しても圧力が加わらない場合、ポンプレバーを抜き取り皮パッキン (A-22) を調べて、皮パッキンの油気がぬけていたら保革油または機械用グリスをたっぷり塗り皮パッキンを広げてポンプへ装着して下さい。



(4) パッキン

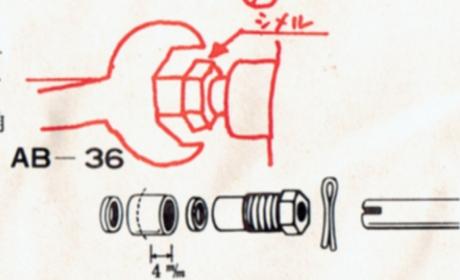
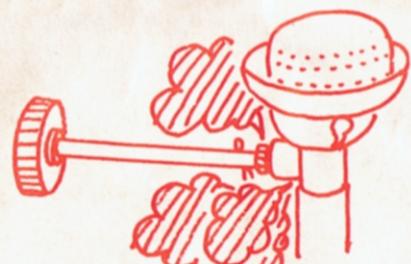
■ハンドル基部から煙や炎が出る時はその部分からガス漏れが生じているので次のような動作を行って下さい。

(a) 6角ナット (AB-3) をスパナ、モンキー等で締める。

締めてもガス漏れがとまらぬ場合、一旦、火を消して本体の冷えるのを待って圧力を抜き、

(b) 6角ナットをはずし、予備パッキン (AB-6) を約4mm程にナイフ等でカットして挿入し、六角ナットを締めて下さい。

この場合AB-7をはずしてAB-6を押入し再びAB-7を挿入する。



調整及び点検修理

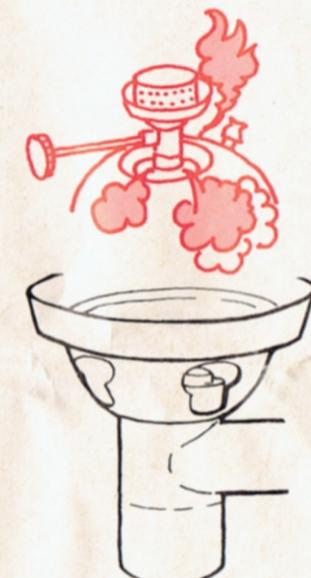
(IV)

■バーナ部とタンク接合部から煙や炎が出る時はその部分からガス漏れが生じているので次のような処置を行ってください。

(a) バーナとタンクの接合部をスパナ、モンキー等で締めて下さい。

締めてもガス漏れがとまらぬときは一旦火を消して本体の冷えるのを待って圧力を抜き。

(b) バーナーとタンク接合部分をゆるめて分解しパッキン (AB-10) を交換して下さい。

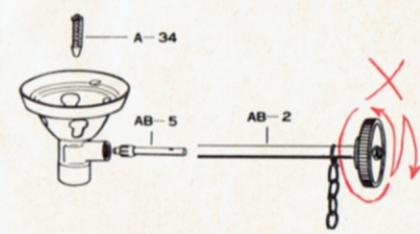


AB-10

(5) ハンドル

■ハンドル (AB-2) を必要以上に廻したり又は無理な力を加えて廻しますとバーナー内部の歯車 (A-34) (AB-5) 又はハンドルとAB-5の接合部分が損傷することがあります。

ハンドルは必要以上に廻さないで下さい。



必ず守っていただきたい事項

(6) タンク

- タンク内にゴミ・カーボンなどがたまるとニツブルなどにつまり不完全燃焼の原因となりますからタンク内はつねにクリアにしておいてください。



(7) 保管

- 保管する場合燃料を完全に抜き取ってください。特に石油を使用した場合腐蝕しやすいので注意して下さい。



※テント内部、室内で使用の場合は
特に通常より室内の換気に気をつけてください。

- (1) 気化ガスが充満した場合、引火し爆発・火災の危険があります。
- (2) 燃焼による一酸化炭素の充満により一酸化炭素中毒の危険性があります。
- (3) 酸欠は不完全燃焼の原因となります。

